

についての理想像は意志が強く努力する子ども。社会的関心、国際的関心低い。  
(大会発表論文抄録4-7頁)

## 入園調書からみた母親の教育観

愛育研究所付属愛育幼稚園

植松 治子  
住吉 玲子  
小島 洋子

幼児が心身共に健全に育つためには、母親の協力が必要である。母親が教育担当者として、適正な幼児教育観を持ち、教育的配慮を持って、幼稚園教育に協力・参加してこそ、教育効果を上げ得るものと思う。従来、一般幼稚園では、母親の協力を得ながらも、幼児教育の実を上げる点においては、必ずしも望ましい発展はしていないようである。そこで我が園では、幼児教育は、むしろ、その母親の教育にありとして、母親教育に重点をおいた。成人の教育は、いろいろ複雑な難かしい問題を持っている。しかし当面の問題は、当園で幼児教育を如何に有効にするか、とゆうことにしほり、入園させた希望を持つ母親の教育観を識っておき、入園後の参考資料としてきた。即ち、入園希望者に、質問紙を配布して記入させる。面接法により、各自の意見を聞く、二方法により、資料を集し、これをまとめて、いろいろの角度から母親の教育観を探らんとした。次にその一部分を述べる。

第一に質問の内容は、五問からなっている。

一、何故この幼稚園を志望されましたか

二、お子様について平生何かお困りの事があつたら書いて下さい

三、お子様と、家族の方との間で問題になるような事があつたら書いて下さい

四、どのような子どもであつてほしいと思いますか

五、お子様の現在の教育法を書いて下さい

この調査は、昭和二十七年より同三十五年までの九年間。整理総数人員、三六六名の意見を次にまとめてみよう。各項目についての記録を左のように分類した。即ちAは食物に関する問題、B身体的問題、C性格的問題、D家族間の問題、F社会環境的問題、この結果は、Cの問題が一番多く、子どもの出生順位についての差はあまり見られなかった。次にEが続いており、ここでは、一人っ子が少々出ている。これは、友達がないということの記述が多かった。第三問に対しては、問題なし、という記述が多かったので、省くことにして、第四問をみると知能的問題が出てきている。しかしここでは、Cの問題が上っている。続いて、Aの問題となっている。第五問では記述の細かな者、複雑なものもあったが、やはり、Cの問題に教育的関心が注がれていることが解つた。子どもに対しての、困ることや希望の点については、ある程度はつきりと記述しているが、これが、五問になり自分達の現在の教育法となると、多少分布も広がり、二、三、四問に対しての教育観や、方法は、必ずしも適切な線に添っているとは言えないようである。次に、以上の問題を年度別にみるといつの年代においても、Cの問題を取り上げていることが解る。調査の結果から見ると、子どもに対して良い性格になるよう期待しているが、その後の母親指導の実際の場合では、調査用紙や面談時の記述や意見とは、違った面、即ち知能的問題に關しての、関心が相当にうかがわれ、成人教育の複雑さ、困難さを感じている。